

わらびてとう
蕨手刀

- ◇ 指定日 昭和54年7月24日
- ◇ 所在地 松山
- ◇ 所有者 個人



蕨手刀は日本刀と異なり、柄と刃の部分
が一体の共作りで、柄頭が早蕨^{さわらび}の形に似ていることからこの名が付けられています。

岩手県を中心に主に東北・北海道で発見されており、岩手県から見つかったものだけで全国の約30%となっています。松山地区で見つかった蕨手刀は、江戸時代の終りごろ畑を耕していたときに掘り出されたものと伝えられています。

鉄製で、全体の長さが46cm、刃の部分が33cmほどのがっしりしたものです。作られた時代は、奈良時代の終りごろから平安時代の初めごろと考えられており、ほぼ1,200年も前ということになります。

市内では、長根Ⅰ遺跡からも1点出土していますが、その形などを比較すると違いがあることが分かります。古代東北に中央の政治や文化が入ってくるまでは、蝦夷^{えみし}と呼ばれた人たちの独自の文化があったといわれています。

この蝦夷文化を象徴するもののひとつが「蕨手刀」です。